

経営比較分析表（令和4年度決算）

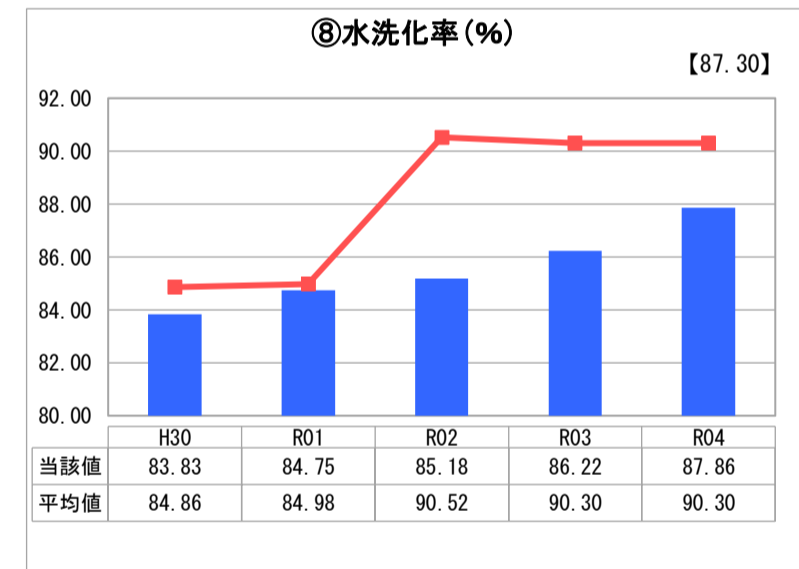
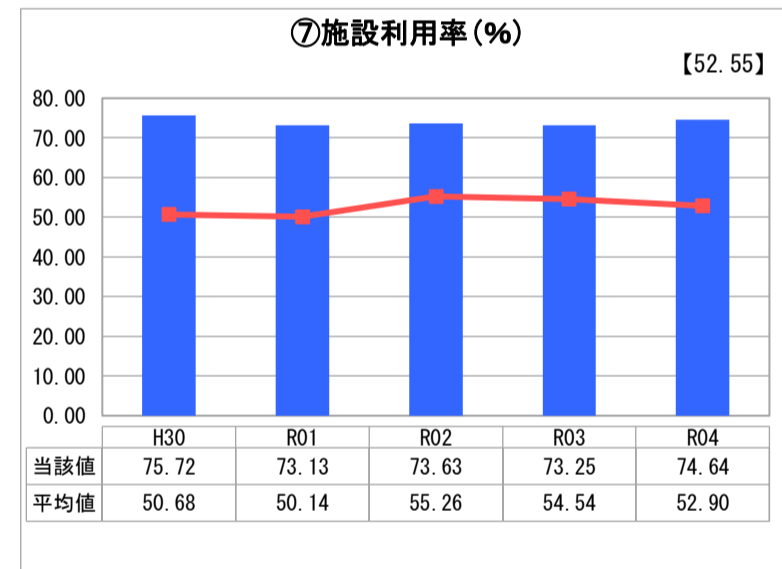
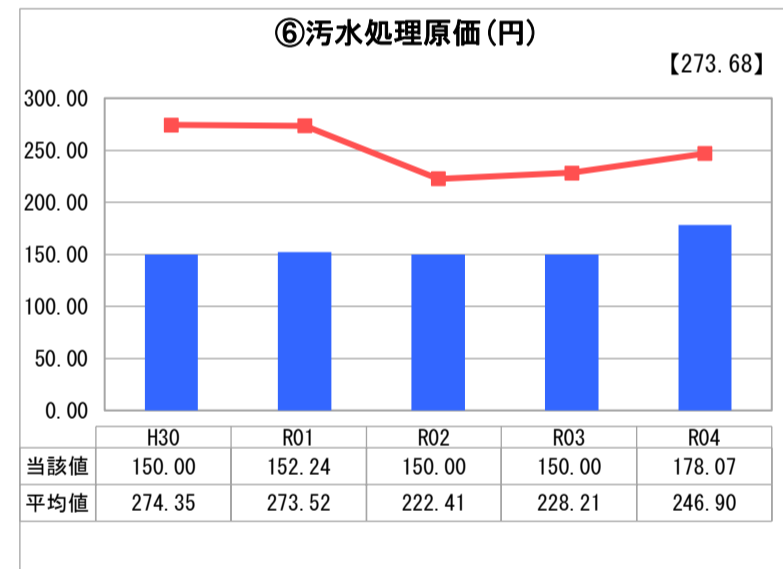
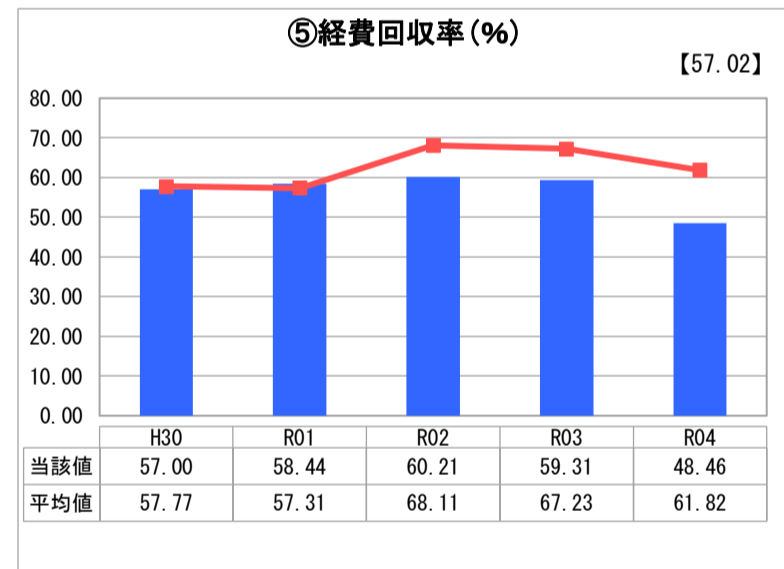
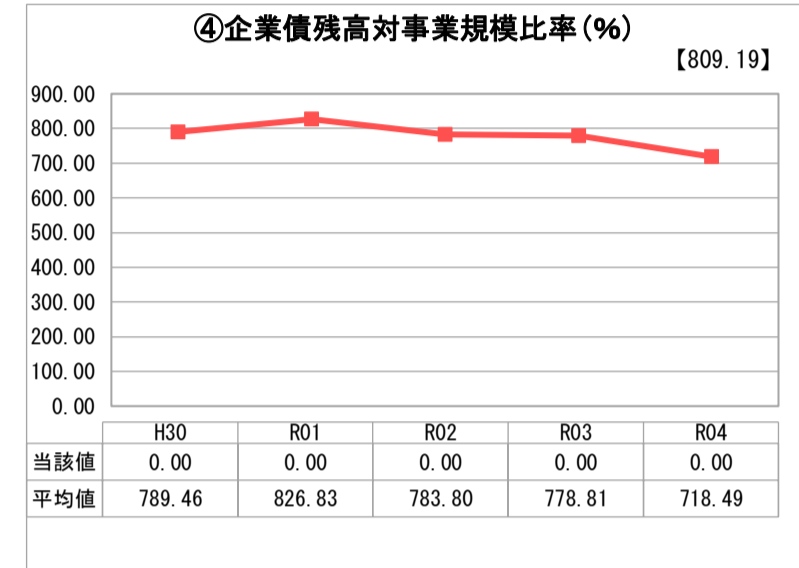
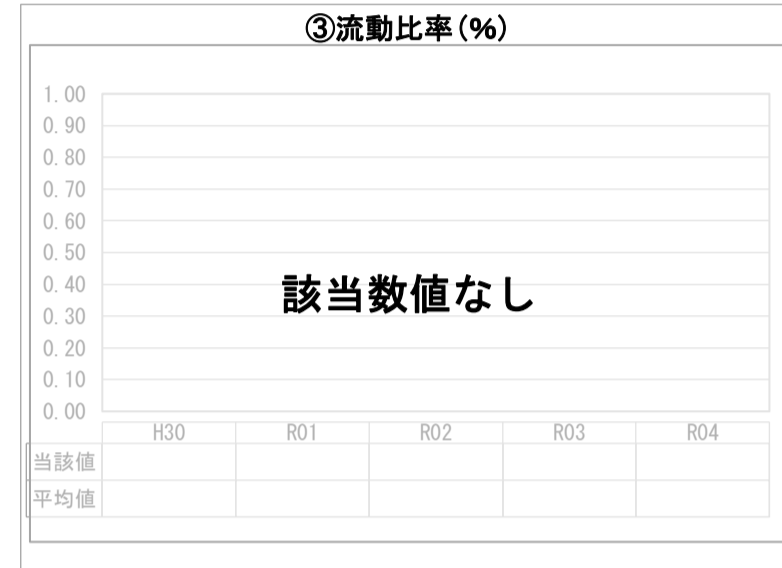
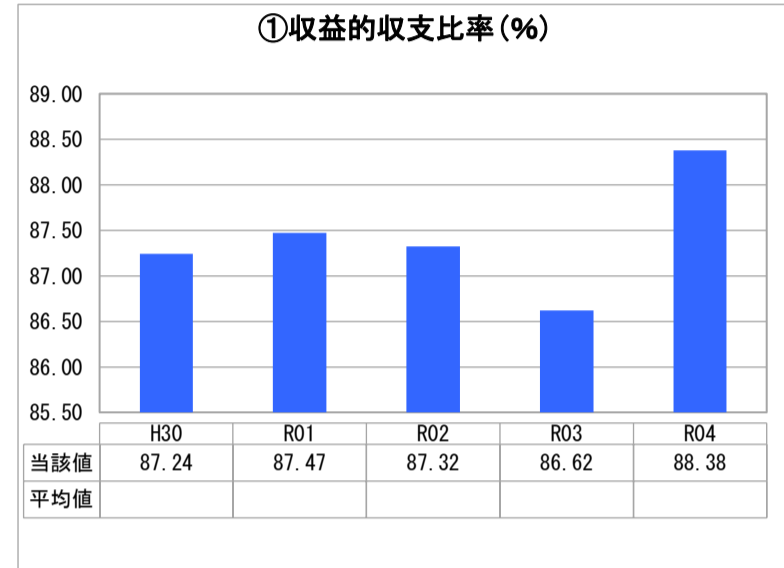
岩手県 盛岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	2.43	100.00	2,769

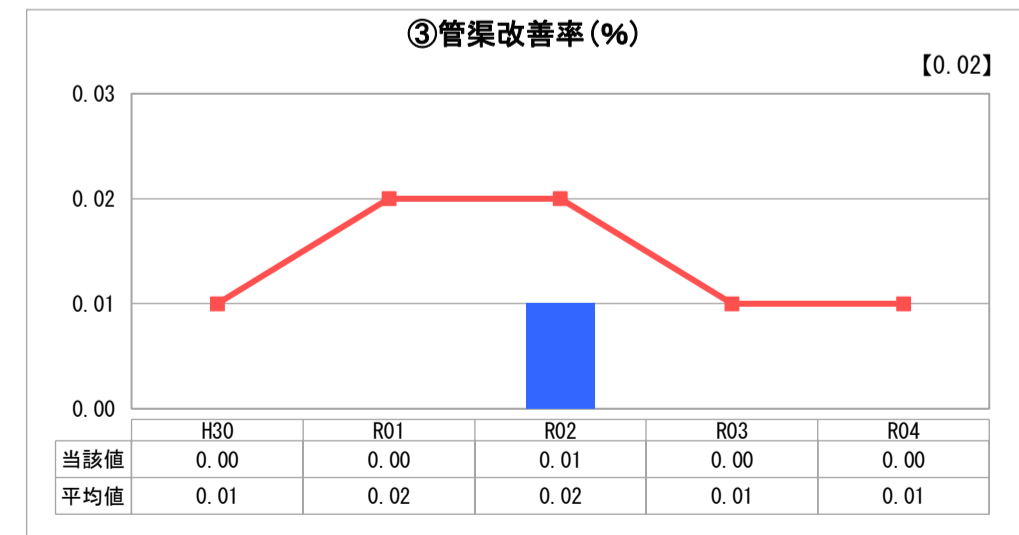
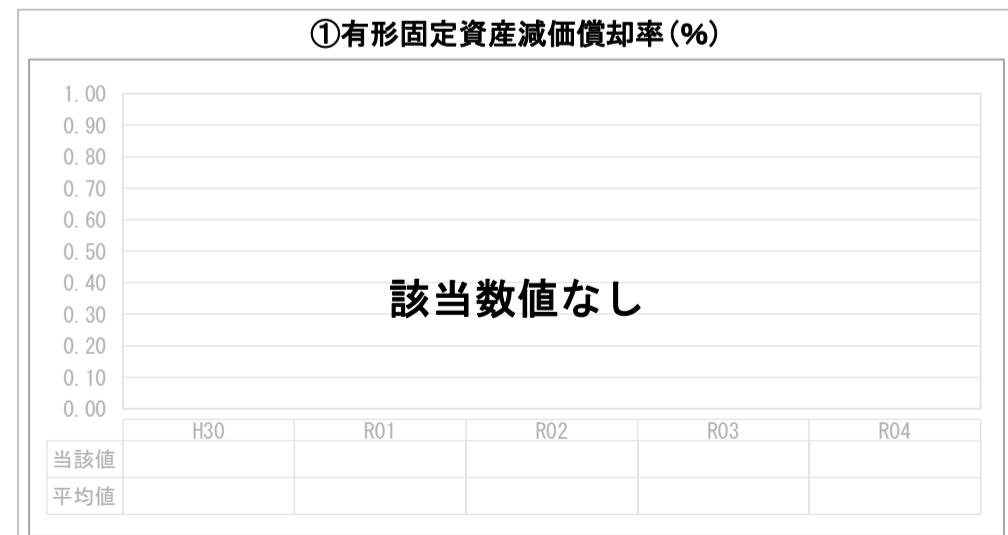
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
282,960	886.47	319.20
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,830	18.63	366.61

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率(①)は100%を下回り、単年度収支が赤字である状況が続いている。
 経費回収率(⑤)も100%を下回る状況が続いているため、使用料水準の適正化が課題となっている。
 水洗化率(⑧)は増加傾向にあるものの、類似団体を下回っている。今後も接続促進の取組を継続し、使用料収入の増加に努める。
 今後は、農業集落排水処理施設の改築更新が必要となり、多額の事業費を投入しなければならない状況であるが、市の財政状況等を踏まえると市費負担分の捻出は困難な状況にある。
 このことから、汚水処理費(維持管理費)の削減など一層の経営効率化を推進するとともに、使用料の見直し等による必要な経費の確保が必要である。

2. 老朽化の状況について

市内7地区の農業集落排水処理施設(供用開始時期は平成2年から平成18年まで)は、将来的に大規模な改築更新が見込まれ、その費用が多額となるため、市の負担軽減及び汚水処理施設の整理統合の観点から、計画的かつ効率的な公共下水道への接続(切替)の検討のほか、将来的な更新需要のピークに備え、長寿命化による更新費用の平準化とともにライフサイクルコストの最小化の取組が必要である。
 また、厳しい経営状況の下、将来の事業継続に向けて、受益者負担の適正化等の抜本的対策が必要な状況である。

全体総括

農業集落排水事業は、将来の普及人口の飛躍的な増加は期待できず、人口減少や節水機器の普及等の影響により、今後の使用料収入の大幅な増加は見込めない状況である。今後は、これまで投資してきた資産の更新・改築需要が増大することから、より厳しいコスト意識が必要である。
 このことから、より効果的で持続可能な汚水処理事業の全体構想及び最適化整備構想等に基づき、将来にわたって市民が下水道事業のサービスを安定的に受けられるような事業経営に努める。また、使用料については、使用料体系も含めた適時適切な見直しを検討する必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。